川とまちを考える会

横浜・和泉川の 川・まち計画

River-Town Seminar
Izumi River in Yokohama &
its River-Town Planning

昭和62年、神奈川県横浜市西部を流れる**和泉川**を軸にその水系と流域を視野に入れた**川・まち地区計画**がつくられた。この勉強会では、今日にいたるその景観を支えた『**和泉川環境整備基本計画（案）**』を手がけた三者を招き、当時の資料とともに計画をふりかえり、そこに託されたものをこれからの社会につなげます。

吉村伸一
株式会社 吉村伸一流域計画
YOSHIMURA Shinichi

橋本忠美
株式会社 農村・都市計画研究所
HASHIMOTO Tadayoshi

奥村玄
株式会社 GENプランニング
OKUMURA Gen

6月1日 日 2025
ノミガワスタジオ
東京都大田区池上 4-11-1 1F
15:00 - 16:30

定員 25 名ほど
会費 1500 円
お申込みは ➡

聞き手：呑川水系の人びと
- 石井秀幸（スタジオテラ）
- 佐瀬優子（アトリエ言景）
- 田村将理（途草会・あ建築）
- 森厳　（呑川の会）

主催：川とまちを考える会 ｜ 協力：ノミガワスタジオ ｜ 写真：吉村伸一 ｜ お問い合わせ（事務局）： masamichitamura@gmail.com

1978 年に横浜市長が代わり新しい総合計画の検討が行われ、河川環境整備事業の創設を提案。川の自然回復整備、川辺の道整備、水辺拠点整備という 3 つの事業を組み込む。なにをやるか分からない（予算化されない）河川環境は概念でしかなく実行が伴わないことが多い。何処の川でなにを、どれだけの予算でやるかという事業計画を立てることが重要である。
1982 年度に実施したいたち川の低水路整備が第一号。河川改修で川底が平らになり瀬や淵を失った川に川らしさをとりもどす事業である。合わせて、伐採された河畔林を川辺の道整備で復元した。今は栄区のシンボル河川として市民に親しまれているが、当時市民の関心は「あふれない川・匂わない川」で、そんなことしても無駄と反発も大きかった。治水計画の河川区域は「あふれない」を計画条件とした川幅である。いたち川での上記事例は、そうして定められた河川区域内での工夫にとどまる。
水辺拠点整備はそこを突破する施策（川からまちへの越境）。まちづくりの視点から川と周辺環境をつないで、一体的な広い河川空間を整備するという事業である。和泉川では 1987 年度に「河川環境整備基本計画」の検討作業を行い、10 の「川・まち地区」を設定。19 の「水辺拠点」候補地を抽出し、リアリティーのあるイメージスケッチを作成した。実現した水辺拠点は 6 箇所である。　（吉村伸一　2025 年 4 月）

〈川からまちへの越境〉

横浜・和泉川の川・まち計画

『和泉川環境整備基本計画（案）』（1987）表紙
横浜市下水道局河川部河川工事課の委託を受け、㈱農村・都市計画研究所が作成したもの。
（統括・計画担当：橋本忠美、ワークショップ担当：奥村玄）

吉村伸一

株式会社
吉村伸一流域計画

1977 年から 94 年まで横浜市河川部に所属。いたち川など横浜市内河川の自然復元や水辺拠点の計画設計に携わる。和泉川では、まちづくりの視点からの「川・まち計画」を立案。東山の水辺・関ヶ原の水辺など周辺環境と結びついた水辺拠点を具現化した。1982 年よこはまかわを考える会の設立に参加。都市河川再生市民活動に取り組む。98 年より現職。

橋本忠美

株式会社
農村・都市計画研究所

まちづくりや地域の環境デザインの専門家として和泉川の計画設計に携わる。日本では早い段階から市民ワークショップなど参加型の仕事を進める。和泉川でも参加型手法を活用し河川環境整備の方向性を立案。子どもたちのワークショップ成果を受けて、赤関おとなり橋、通称メガネ橋（宮沢遊水地）、和泉橋（地蔵原の水辺）など「川と出合う橋」に着目した物語性のあるデザインを実施、さらに東山の水辺など具体的な水辺拠点のデザインまで継続して携わる。

奥村玄

株式会社
GEN プランニング

世田谷区、横浜市、宮崎市、飯田市、高野町など各地で住民参加によるまちづくり計画や条例策定等に携わる。ワー クショップの企画運営は 900 回に届く。
和泉川の計画では、流域にある 11 の小学校 4 年生 400 人が参加する「こどもの遊び環境調査ワークショップ」の企画運営を主に担当（計画当時農村・都市計画研究所に所属）。

川とまちを考える会について

この会は、2025 年 3 月 29 日の和泉川見学会（ 企画：よこはまかわを考える会 ）をきっかけに、河川を中心とした和泉川のまちづくりがいかにして実現されたかをふりかえるために企画されました。1987 年にまとめられた『和泉川環境整備基本計画（案）』は「川とまちを一体的に捉えた環境単位」を「川・まち地区」という基本的な計画単位に位置づけており、そのあとがきには当時横浜市河川部に所属して和泉川の再生事業を担当していた吉村伸一氏がそこに込められた想いを記しています。今回はこの再生計画を手がけた三者を招き、計画を導いた思想やその実現を支えた過程を学び、川とまちをともに豊かにしていくための知恵を水系や流域を越えて分かち合い、実践的に継承することをめざします。

事務局：吉村伸一（座長）・石井秀幸・佐瀬優子・田村将理・森巌

会場アクセス

ノミガワスタジオ
東京都大田区池上 4-11-1 第五朝日ビル 1F

東急池上線・池上駅（徒歩 10 分ほど）
・池上駅の北口から出てそのまま北上
・川に辿りついたら水とともに下流へ
・左岸（左手側）に校庭が見えるあたり
・右岸（右手側）に会場が見つかります